



### 話題

## 新型インフルエンザワクチン接種

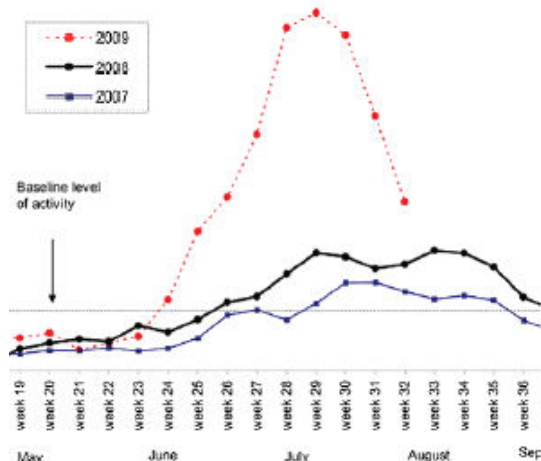
新型インフルエンザが世界中で猛威を振るっています。対策の切り札であるワクチン接種が始まりましたがどの国も混乱しています。写真はワクチン接種の開始と同時に市民が予防接種クリニックへ押しかけパニックとなったカナダのニュースです。



接種の対象者は妊婦と基礎疾患を持つ人に限られたためほとんどの人は予防接種を受けることなく帰らされたそうです。さて、愛知県でもワクチン接種が始まりました。10月末に医療従事者、11月半ばより妊婦と基礎疾患を持つ小児(1歳以上小学3年生以下)、12月からは小学3年生以下の小児一般と基礎疾患を持つ人(小学校4年以上)、その後小学4年以上・中学生・高校生・65歳以上と順次対象が拡大されてゆきます。希望者全員にワクチンが行き渡るのは2010年の2月になる予定です。これで間に合うのでしょうか?いいえ、もちろん間に合いません。でも、たぶん大丈夫でしょう。

ここで我々より一足早く新型インフルエンザの流行する冬のシーズンを経験した南半球の記録を見てみましょう。米国国家安全局がまとめたオーストラリア・ニュージーランド・アルゼンチン・チリ・ウルグアイに関する報告書によれば、ほとんどの地域で流行は5月に始まり7月半ばにピークを迎え、それ以後急速に減少して、流行期間の長さは平均的

な季節性インフルエンザとほぼ同じでした。代表的なニュージーランドの流行推移を見てみましょう。



ピークの発生件数は2008年の3倍に達しましたが、そこを越せば発生は急速に減少しました。新型インフルエンザで死亡したのはニュージーランドでは16人、またアルゼンチンでは439人でした。季節性インフルエンザで毎年死亡する人の数はニュージーランドで400人、アルゼンチンで3500-4000人なので今年は死亡が10分の1に減ったことになります。米国国家安全局は、新型インフルエンザは一般的に軽症の疾患で、主として学童期の子供と65歳未満の成人に発症し、死に至るのはごくわずかのケースであった、妊婦と基礎疾患を持つ人ではインフルエンザの合併症になるリスクが高まる、全ての国で流行初期には医療機関へ患者が殺到したが医療機器やクスの不足に至ったケースは限定的であった、学校の閉鎖や集会の中止、患者の隔離や検疫、国境でのチェックやフライトのキャンセルなどにより一時的で局地的な社会経済への影響と観光の減少が認められた、と要約しました。

すなわち、南半球の経験は新型インフルエンザが想像したほど怖い病気ではないことを、これから冬を迎える北半球の我々に教えてくれたのです。

世界規模で新型インフルエンザを監視して各国の保健行政に提言を与える世界保健機構(WHO)では、これまでの経験を踏まえてワクチン接種の優先順位を以下のように推奨しています。

はじめに

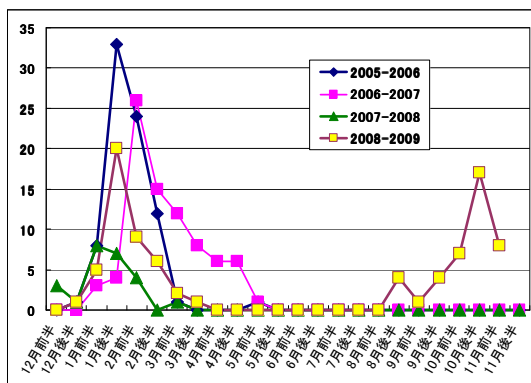
- 妊婦
- 6ヶ月未満の小児の保護者
- 医療従事者
- 6ヶ月以上 24歳以下
- 25歳以上 64歳以下で基礎疾患を持つもの

ワクチンの余裕があれば

- 25歳以上 64歳以下
- 65歳以上

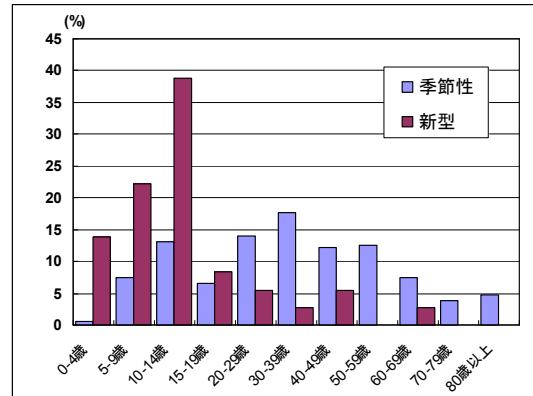
日本の優先順位が WHO の推奨と異なるのは「医療従事者」と「65歳以上」の位置付けです。日本で医療従事者が最優先された理由は、順位を決める議論の最中に北海道利尻島で集団発生した新型インフルエンザの調査にあたった保健師が感染して亡くなったため最前線に立つ医療従事者への配慮から決められたように思います。65歳以上については、医学的なデータに基づけば最も感染しにくいグループなのでワクチン接種の順番は最後になりますが、日本人の心情として65歳以上を順位の最後尾にはもって行けなかったのでしょう。

さて、ここで11月15日作成の当院のインフルエンザ発生状況を見てみましょう。



インフルエンザは8月から発生があり、10月に一気に増えましたが11月に入り少し勢いが衰えました。今シーズンが過去3年間より多く発生するのであれば、これから本格的に流行することになりま

す。一方、例年のように流行は3ヶ月間で終息するのならば12月には下火になるはずですが、どちらになるのか今のところ誰にもわかりません。次に当院のインフルエンザ患者の年齢を見てみましょう。



新型インフルエンザの患者は10-14歳に最も多く、子供が大部分を占め、50歳以上にはほとんど認められません。季節性インフルエンザがあらゆる年代に認められるのと好対照です。すなわち、南半球でも瑞穂区でも新型インフルエンザの最大の被害者は学童期の子供たちでした。

さて、これらの状況を踏まえて新型インフルエンザのワクチン接種をどう実施するのがベストでしょうか。小中学生は大人より発病しやすく、また学校やクラブなど狭い空間で集団生活する時間が長いので感染の機会も多くなります。したがって、まだかかっている小中学生へ優先的にワクチン接種を行いたいのが本音です。しかしながら、愛知県では12月7日まで小学3年以下の小児一般へ接種ができません。小学高学年と中学生には2009年1月からと決められています。その頃には瑞穂区のインフルエンザ流行も終息し、ワクチン接種をする意味が無い状況になっているかもしれません。

どのような結末になるのかわかりませんが、これからは新型インフルエンザだけでなく普通の風邪や季節性インフルエンザにもかかりやすくなります。普段から規則正しい生活で体調を整えておくこと、帰宅後はうがい手洗いでウイルスを洗い流すこと、風邪を引いてしまったら栄養を摂ってできるだけ家でおとなしくしていること、外出する時はマスクをして咳エチケットを守ること努めてください。